

令和5年度狛江市医療と介護の多職種連携研修会 グループワークで出た主な意見

1 世帯について気になること

	気になること	具体的な意見
本人（Aさん）について	健康状態について	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬、食事時の誤嚥のリスクはあるか ・食事は、現在の嚥下機能に合ったものを嚥食できているか ・麻痺の度合いはどの程度か ・褥瘡はあるか ・口腔内の状況はどうか ・排便コントロールはできているか
	判断能力、意思決定について	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害による判断能力の低下はどの程度か ・判断能力の低下に伴う生活の支障はあるか ・今後についての意思決定はできるか ・金銭管理はできているのか
	息子について	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の死去後に、息子にどのような生活を送ってほしいと思っているか ・息子との同居について、どのように考えているか ・息子の体調、病気についてどの程度理解できているか
	在宅生活の継続について	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の意識がなくなった際にも、在宅を希望するか
	親族、地域コミュニティについて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関係性はどうか ・兄弟姉妹との関係性はどうか
息子について	健康状態について	<ul style="list-style-type: none"> ・透析時に出されている薬の服用状況はどうか ・栄養状態はどうか ・血圧管理はできているか ・知的レベルはどの程度か ・身体状況にあった食事を嚥食できているか ・両手指欠損の影響や日常生活の困りごとはあるか
	判断能力、意思決定について	<ul style="list-style-type: none"> ・急逝の可能性もある自身の病気について、どこまで理解できているのか ・手続きや契約を行う能力はあるか ・食事管理はできているか ・生活習慣改善の可能性はないのか
	父について	<ul style="list-style-type: none"> ・父との関係性はどうか ・父との会話はあるか ・父がいなくなることを想定できているか ・父の介護をどこまでできるのか ・自分のことも含め、決定権を父に委ねているのか
	今後について	<ul style="list-style-type: none"> ・父が死去、または入所した場合も、在宅を希望するのか ・父が死去、または入所した場合、現在のサービス数や経済状況で在宅生活の継続はできるのか ・求職中とのことだが、就職への思いや具体的な求職活動はどこまで行っているか ・今後の生活について、希望はあるか
	父以外との関係性について	<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟姉妹との関係性はどうか ・就業していたころの仲間など、父以外に相談できる、頼れる人、友人はいるか ・最も信頼している支援者は誰か

2 各専門職としてできること

目的	具体的な意見
在宅生活の維持のために	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の剤形、服用方法を調整し、服薬管理を容易にするとともに、誤嚥を防止する ・父子の身体状態に合った食事を提案し、ヘルパーに買い物、調理をお願いする ・配食を利用する ・医師や看護師の説明をどこまで理解できているか確認し、フィードバックを行う ・本人の全身状態や薬の情報を息子に把握してもらう ・息子の全身状態の把握を行う ・公的サービス始め様々な支援があることを説明し、必要な情報提供を行う
今後のために	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイを利用することで、分離を経験してもらう ・本人には、ベッド上の生活ではあるが、デイサービスを提案する ・息子には、日中は生活介護就労B、夜間はグループホーム、ショートステイを提案する ・父子共に、お互い以外との関わりがリハビリになるため、楽しめる社会参加を模索する ・父子どちらも死去のリスクがあるため、親族内でのキーパーソンの選定、成年後見人制度の利用を行う必要がある ・病状が悪化した際に入院等の積極的な治療を望むか否かを聞き取る ・アウトリーチやアセスメントを継続し、世帯分離も視野に支援を行う
多職種連携のために	<ul style="list-style-type: none"> ・入院等の緊急対応を行った際、入院先や対応内容を各専門職へ情報共有できる体勢を整える ・父子の意思、希望の聞き取りを行い、それに合わせて各専門職が分担、協力する体勢を整える ・家族、支援者が集まる会議を定期開催し、支援の方向性を決定しつつ、支援者間での共通認識を形作る